

胃がん検診をお受けになる人へ【注意事項】

胃バリウム検査は、体質や過去の病気により、バリウム等のアレルギーによる重篤な症状がでたり、ごくまれに虫垂炎・憩室炎（注1）・腸閉塞（注2）等の偶発症を起こすことがあります。

検診を受けることによりむしろ身体に不調をきたす場合もあります。これらを理解いただき、必ず以下の全ての項目を確認したうえで受診してください。

特に、腸の動きが緩慢になりやすい高齢の人は、バリウムが腸に詰まって、腸閉塞を起こし、手術が必要となる場合もあります。また、食事の際、食べ物が飲み込みにくかったり、むせやすい人は、バリウムが誤って気管に入りやすく、誤嚥性肺炎等を起こす場合があります。

受診に関して不安に感じられる場合は、受診を控えられるか、ご相談ください。

検診後に腹痛・発熱・息苦しさ・発疹等の症状が見られた場合は、すみやかに医療機関を受診してください。万が一検診受診後にバリウム検査が原因で入院治療を要するようなことが起こった場合は、健康推進課（電話：072-423-8811、FAX：072-423-8833）までご連絡ください。

※注1 憩室炎：大腸憩室（大腸の壁の一部がそとへ袋状に飛び出しているもの）に炎症が起きた状態。

※注2 腸閉塞：さまざまな原因で腸の中のものがつまり、肛門側に移動できなくなった状態。

★ 次の項目に該当する人は、胃バリウム検査を受診できません。

- ①妊娠中、またはその可能性がある人（授乳中の人は検査可能です）
- ②バリウム検査でアレルギー症状の出たことがある人
- ③よく誤嚥される人
- ④1週間以内にバリウム（胃・腸）検査を受けた人
- ⑤検査前に72時間排便のない人や、ひどい下痢が続いている人
- ⑥検診当日の収縮期血圧が180mmHg以上、または拡張期血圧が110mmHg以上の人
- ⑦体重が130Kg以上の人
- ⑧下記の治療歴・手術歴・制限のある人
 - ・過去3か月以内に大腸ポリープを切除された人
 - ・過去1年以内に内臓や血管の手術をされた人
 - ・腸閉塞や腸ねん転になったことがある人（幼少期の腸閉塞を除く）
 - ・大腸憩室炎や炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病等）の治療中やその症状がある人
 - ・腎不全や心不全で水分制限を受けている人
 - ・在宅酸素療法をしている人
 - ・過去1年以内にてんかんや心筋梗塞・脳梗塞の発作を起こしたことがある人
 - ・麻痺や運動障害があり体位変換ができない、あるいは嚥下障害（飲み込みが悪い）がある人
 - ・脳圧亢進でシャント中の人

★ 次の項目に該当する人は、胃バリウム検査を受診できない場合があります。

（事前にご相談ください。）

- ・糖尿病でインスリンポンプや持続グルコース測定をしている人（糖尿病学会指針参照）
- ・初めての人で、アレルギー（薬・金属・食品等）症状が重篤な人

● 裏面に内服薬や食事制限等について、大切な注意事項を記載しています。必ずお読みください。

裏面へ



胃バリウム検査の食事制限 必ずお守りください

- 絶食でお越してください。当日は飴・ガム・ラムネ・タバコも控えてください。
- 入れ歯安定剤は、絶食開始から検査終了まで使用を控えてください。

【午前に受診の人】

- ・前日の夜 10 時以降は食事・飲酒をしないでください。
- ・水(水以外は不可)は、起床後から受付 2 時間前までは、200ml(コップ 1 杯程度)までは飲水可。

【午後に受診の人】

- ・当日の午前 7 時まで、軽い食事を済ませて、それ以降は食事・飲酒をしないでください。
(油分を含まず消化の良い、ミルク・砂糖を含まないもの)
- ・水(水以外は不可)は、朝食後から受付 2 時間前までは、200ml(コップ 1 杯程度)までは飲水可。
- ・検査当日特定健康診査も一緒に受けられる人は、別紙「特定健康診査のご案内」の裏面「健康診査前日と当日の注意」も併せてご参照ください。

治療中（内服中）の人へ 受診前に主治医に確認してください。

【糖尿病治療中（内服中）の人】

- ・午前に受診の人は、インスリン注射や血糖降下剤を服用せずにお越してください。
(服用した場合、胃がん検診は受けられません。)
- ・午後に受診の人は、午前 7 時までの軽い食事の前後にインスリン注射や内服薬の服用をしてください。※食事を摂らずにインスリン注射や血糖降下剤の服用をすると、低血糖症状を引き起こす恐れがあります。

【その他の治療中（内服中）の人】

治療中のお薬は、受付 2 時間前までに少量の水で服用してください。

胃バリウム検査の前後は、次のことにご注意ください

【胃バリウム検査の前】

胃バリウム検査をお受けになる前は必ず便秘を整えてから（便秘の人は便秘を解消してから）お受けください。便秘の状態を受けられますとバリウム便が排出困難となります。また、バリウム便の排出が困難で過去に治療をお受けになった人は内視鏡での検査をお勧めいたします。

【胃バリウム検査の後】

- 飲んだバリウムを早く体外に排出するため、以下のことをお守りください。
 - ①必ず会場にて下剤 2 錠を多めの水でお飲みください。
 - ②検査終了後は、できるだけ早めに食事をおとりください。
 - ③通常の便に戻るまで、水分を普段より多めにとり、アルコール類は控えてください。
 - ④便意を感じなくても、定期的にトイレへ行き排便を試みてください。※個人差はありますが、下剤服用後 7～12 時間で便が出ます。
※便秘になりがちで下剤を多めにもらった人は、夜まで排便がない、または少ない時に 2 錠を追加で服用してください。その後も排便がない場合は 8 時間程度の間隔を空け、1 回 2 錠を追加で服用してください。
- アレルギー症状（じん麻疹、浮腫、呼吸困難などの症状）が現れた場合は、すぐに医療機関を受診してください。
- 検査後数日間、持続する便秘（便が出ない、または少量のみの排泄）、腹痛、嘔吐などの症状が現れた場合、すぐに医療機関を受診してください。（バリウムが停留すると、まれに消化管に穴が開くことや、腸閉塞などになることがあるため。）
- その他、異常を感じたら、お近くの医療機関にご相談ください。